

INDEX

| | |
|--|--------|
| 1. Business Studies Abroad IV募集の流れ | P 3 |
| 2. Business Studies Abroad IV(対外経済1.5年)とは? | P 3 |
| 3. 応募資格について | P 4 |
| 4. 留学予定先について | P 4 |
| 5. 学籍と受講登録について | P 5 |
| 6. 留学決定後の事前ガイダンスについて | P 5 |
| 7. 応募について | P 6 |
| 8. 選考方法について | P 6 |
| 9. 留学に関わる費用・奨学金について | P 7 |
| 10. 単位認定と成績評価 | P 8 |
| 11. 注意点 | P 8 |
| 12. 個人情報について | P 8 |
| 13. 立命館大学経営学部 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項 | P 9~10 |
| 14. 派遣先大学紹介 | P 11 |

1. Business Studies Abroad IV募集の流れ

| 項目 | 場所 | 日程 | その他 |
|----------|--|---------------------------------|-----------|
| ガイダンス | 実施なし（個別、経営学部事務室にて相談可。） | | |
| 応募書類提出期間 | 【応募書類配布】 学びステーション 【応募書類提出】 学びステーション | 10月3日（月） ～10月14日（金）17:00【厳守】 | |
| 面接期間 | 経営学部事務室 面談室 | 10月18日（火） | 30分間程度の面接 |
| 派遣許可者決定 | CAMPUS WEB | 10月26日（水） | |
| 派遣者ガイダンス | 未定 | 10月28日（金） | |

2. Business Studies Abroad IV（対外経済1.5年）とは？

プログラムの意義と特徴

BSA II 及びIVとは、経営学部で学んでいる皆さんに自らの専攻する学問に対して国内だけでなく、グローバルな社会の要請や意義を確かめ学んで頂く、経営学部独自の留学プログラムです。留学先大学で修得した外国語や専門科目は、経営学部の単位として認定されます。そのため、留学前の本学での学修と留学先での学修を積み上げていけば、留学したことで卒業が遅れる事はありません。またこのプログラムの基本は、交換留学であり、学費は本学と留学先大学との間での相殺になるため（派遣型留学を除く）、留学先に学費を支払う必要はありません。『立命館大学海外留学チャレンジ奨学金』に基づき、留学期間に応じて奨学金も支給されます。

そのうち、BSAIV対外経済貿易大学1.5年（3セメスター間）留学プログラムは、同大学の留学生教育を担当する国際学院で、1セメスターと2セメスターは一般中国語及びビジネス中国語を履修し、3セメスター目に国際学院で開講する経営・経済専門科目を受講するプログラムです。一般中国語、ビジネス中国語という2つのステップを通じて高度な中国語能力を身につけたうえ、専門科目を学ぶ事を特徴としています。長い時間をかけて、専門科目を学ぶための中国語基礎をしっかりと築くことが可能であるため、中国語初心者でも安心して参加できます。

対外経済貿易大学は国際経済貿易方面の政府官僚を中心とした人材養成機関としての役割を果たしてきた大学であり、その教学内容も外国語と経済経営の専門知識を持った国際経済・ビジネス分野で活躍できる人材育成を行うカリキュラムを特徴とします。対外経済貿易大学での留学を通じて、皆さんも将来国際ビジネスリーダーとして活躍するための素養を身につけることができます。

1.5年履修モデル

| 各セメスター | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター |
|---------------|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| 所属 | 国際学院 一般中国語コース (初級・中級・高級) | 国際学院 ビジネス中国語 (初級・中級・高級) | 国際学院 中国語経済貿易研修コース |
| 語学レベル (目標) | 新HSK4級 (180点～194点が望ましい) | 新HSK4級 (210点～300点が望ましい) | 新HSK5級 (195点～209点が望ましい) |
| 学修内容 | 一般中国語 | ビジネス中国語 | 経営経済専門科目 海外インターンシップ |

3. 応募資格について

プログラムの応募資格は次の1)～6)の通りです。

- 1) 応募時に経営学部1・2回生であること。 ※大学院生は対象外です。
- 2) 累計もしくは直近セメスターのGPAが2.75以上であること。
- 3) 語学基準は派遣までに新HSK4級（180～194点）または中国語検定3級を取得していることが望ましい。
・孔子学院 中国語講座の受講料補助制度については、CAMPUS WEBで確認のこと。
- 4) 本プログラムの主旨・目的を理解し、真摯に留学前、留学後に行われるガイダンスやオリエンテーション、現地での学修の全てに参加可能であること。
- 5) 留学先のプログラムについて、多大な関心と意欲を持っていること。
- 6) 留学直前のセメスターに立命館大学に在学していること。

* 経営学部では、長期留学予定学生が留学派遣先大学でより充実した学習ができるよう、留学前もしくは留学後の教育として、英語もしくは中国語による「GBLプロジェクト研究」を開講しています。GBLとはGlobal Business Leadershipの略称で、「GBL型プロジェクト研究」とはグローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーの育成を目標に設計されている科目です。BSA留学プログラムおよび、全学留学プログラムにて海外に留学していく学生はGBL型プロジェクト研究（インターナショナル・コラボレーション型英語・中国語）をぜひ受講してください。

4. 留学予定先について

| 国・地域名 | 派遣先大学 | 所在地 | 実施期間 | 派遣人数 | GPA | 語学基準 |
|-------|----------|-----|--------------------|------|--------|--|
| 中国 | 对外経済貿易大学 | 北京市 | 春出発 3月上旬～翌年7月中旬 | 1名程度 | 2.75以上 | 派遣までに新HSK4級（180～194点）または中国語検定3級を取得することが望ましい。 |

【注意事項】インターンシップへの参加などにより、派遣期間は若干ずれることがあります。

■ 授業形態

【中国語基準による留学】

- ①「基礎中国語」+「ビジネス中国語」+「中国語で専門科目」を履修する。
- ②インターンシップ（別途審査あり）を受講。但し、インターンシップ先は自分で探します。



memo

5. 学籍と受講登録について

5-1. 学籍

BSAIV1.5年にて留学する際に、立命館大学での学生が「在学」から「留学」に変更になる期間は下記の通りです。

| 派遣先大学 | BSAIV1.5年 |
|----------|-----------|
| 対外経済貿易大学 | 前期・後期・前期 |

5-2. 帰国後受講予定の立命館大学開講科目 受講登録について

- ・ 例年、4月に当該年度の受講登録期間が設けられ、1年間分の受講登録を行うこととなっています。
- ・ 時間割および履修・登録の手引きは、立命館大学経営学部HP→「在学生の皆さまへ」→「履修関連」に例年3月下旬頃にアップされるので各自確認してください。
- ・ 登録方法、期間、時間は全て日本で登録する学生と同じ条件であり、かつ日本時間で管理されます。

A. 【前期・後期セメスター授業開始日までに帰国し、留学終了届けが受理された派遣者】

在学生と同じ日程で留学先から受講登録をすることとなります。

※3月31日までに所定の用紙（「留学終了届」）を提出することが前提となります。

B. 【4月30日以前に帰国し、留学終了届けが受理された派遣者】

帰国日が立命館大学前期授業開始日を過ぎる場合は、受講可能な科目に以下の①と②の通り制限があるため、注意してください。

※帰国日が5月1日以降となる場合、前期科目・通年科目を受講することはできません。

① 前期・通年科目

教養科目・外国語科目の受講は不可。専門科目のうち一定の科目を除き受講可能。受講可能科目の詳細及び登録方法は、登録時期に別途案内があります。また、欠席した授業については、適宜課題等が提示されます（予定）。

② 後期開講科目/夏期集中講義

具体的な受講登録手続きは、登録時期に別途案内があります。

C. 【5月1日以降に帰国し、留学終了届けが受理された派遣者】

5月1日以降に帰国した場合は後期より復学するので、【後期授業から】受講が可能となります。

登録手続きは、下記のように行ってください。

※帰国日が5月1日以降となる場合、前期科目・通年科目を受講することはできません。

・ 後期開講科目/夏期集中講義

在学生と同じ日程で前期に全ての受講登録を行います。ただし、後期科目は後期修正登録期間中に修正が可能です。

【抽選科目に関する注意点】

- ・ 抽選科目は一旦受付がされると、一切削除することはできません。
- ・ 抽選科目は、Web申請受付後、空きのあるクラスについて、追加募集がかけられる場合があります。CAMPUS WEBやホームページを随時確認してください。

6. 留学決定後の事前ガイダンスについて

留学前に2～3回程度ガイダンスを行います。派遣には、このガイダンスへの出席が必須です。ガイダンスに出席できない見込みがある場合は、BSAⅡ・Ⅳに応募出来ません。

また、許可を得ずにガイダンスを1回でも欠席すると、派遣先大学での留学派遣を取りやめる場合がありますので、ご注意ください。その他にも保健センターが主催する健康管理ガイダンスや危機管理ガイダンスにも必ず参加してください。原則、授業以外での欠席理由については、一切許可しません。予めご了承下さい。

7. 応募について

7-1.応募書類

- 1) BSAⅣ1.5年応募書類チェックリスト
- 2) BSAⅣ1.5年申込書
- 3) BSAⅣ1.5年を希望する理由
- 4) 進路計画書
- 5) CAMPUS WEB上の成績情報（照会）のコピー（2016年度前期まで）
※必ず氏名とGPAが分かるようA4サイズに縮小し提出すること。
※成績証明書は累積GPAが掲載されていない為不可
- 6) 新HSK（漢語水平考試）スコア表のコピー（取得した場合のみ）
（※対外経済貿易大学へ書類を提出する日から遡って2年以内でなければならない。）
- 7) パスポートコピー（有効期限内のもの）
※派遣先の国によって入国時やビザ申請時にパスポートの残存有効期限に条件があります。
各自条件をご確認の上、有効期限には十分注意してください。

書類は黒のボールペンで記入し、A4サイズに揃えて左上をホチキスどめの上提出すること。

7-2.応募受付期間及び受付場所

【受付期間】：10月3日(月)～10月14日(金)17：00まで

【受付場所】：OIC学びステーション

【応募用紙配布】：OIC学びステーション

またはBSAホームページ(<http://ritsumeiba-gblp.jp/>)でダウンロード

※ 受付時間を厳守してください。10月14日（金）以降は一切受け付けません。

※ 申込時に面接日時の予約を併せて行います。

※ 最終日ではなく、事前に十分余裕を持って書類を準備してください（不備がある場合は受理できません。）

8. 選考方法について

選考は申込レポート・成績・派遣先大学が求める語学基準を満たしているかを重視して、担当教員が書類審査及び面接を行い経営学部教授会での審議を経て決定されます。

【面接期間】：10月18日（火）

【派遣許可者発表】：10月26日（水）【CAMPUS WEB】

9. 留学に関わる費用・奨学金について

交換留学の場合には、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため、留学先に学費を支払う必要はありません。

■主な参加費用

- ・包括海外旅行保険費用
(※派遣者全員、大学が指定する保険に加入)
- ・ビザ取得の為にかかる費用
- ・渡航費(航空券)
- ・現地出入国税、空港税、航空保険料
- ・寮申請費および寮費
- ・現地での交通費
- ・受入大学入学諸経費
- ・教材費等
- ・クリーニング代、電話代、お土産代などの雑費
- ・娯楽費
- ・医療費(特に現地での歯の治療にかかる費用は日本の数十倍かかる場合があります)

参加費用の過年度実績については、別紙「2017年度BSAⅡ・Ⅳ 参考資料(中国語圏)」を確認してください。

【注意点】

- ・寮費、教材費等は派遣先大学で徴収されます。
- ・派遣先大学の事情により、学生寮に必ずしも入れるとは限りません。その場合は、速やかに経営学部事務室までご相談下さい。
- ・費用には個人差があります。

■奨学金

| | |
|------------|------|
| BSAⅣ(1.5年) | 35万円 |
|------------|------|

原則として派遣者全員に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」が支給されます。なお、奨学金は派遣中に学生本人名義の口座に支給されます。ただし、奨学金内容は今後変更になる可能性がありますので、あくまで参考としてください。

また、立命館大学から支給される奨学金とは別に、JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)が所管する奨学金に採択された派遣国がある場合は、別途受給要件を告知した上で、選考を行います。

奨学金によっては併給できないものがあります。事前に経営学部事務室に問い合わせてください。



memo

10. 単位認定と成績評価

BSA II・IVの留学先で修得した単位は、本人による単位認定申請を受け、所定の基準に基づいて、本学で修得すべき授業科目の単位として認定を行います。本学以外で学生が修得した単位の認定は、学部の履修規定等に従い、派遣先大学で受講した科目の内容・レベル、授業時間数等に基づき行われます。単位認定数や単位認定分野・科目については派遣先大学や、各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。

- ・ 認定された単位の成績評価には「N」が記載されます。
- ・ 認定された場合のみ60単位を上限として本学の単位として認定されます。
※大学コンソーシアム等で受講科目の単位認定がすでに行われている場合は、その認定済み単位数を前述した上限単位数から差し引いた単位数までしか新たに認定されませんのでご了承ください。
- ・ 単位認定に関わる申請書類および派遣先大学の成績証明書と受講した科目のシラバス（原文及び和訳）を各自準備して下さい。

留学前に学部事務室で履修科目や単位認定について相談の上、留学中と帰国後の学修計画を立てておく必要があります。

過年度派遣学生の単位認定実績（参考）

| 派遣先大学 | BSAIV1.5年 |
|----------|-----------|
| 対外経済貿易大学 | 45～60単位 |

11. 注意点

- (1) 派遣先大学への応募書類の準備、ビザの申請、航空券の手配などは全て各自で手続きする必要があります。経営学部事務室では対応していません。
- (2) 現地での留学・実習期間が定期試験の追試や成績確認制度の日程と重なる場合は、それらを受けることはできません。また、それに対する特別措置はありません。
- (3) 経営学部での選考において派遣内定者として決定したのち、派遣先大学に応募書類を送ります。受入の可否についての最終決定権は派遣先大学にありますので注意してください。また、派遣先大学によっては応募時に別途インタビューなどが課せられる場合があります。
- (4) 留学先での履修については、派遣先大学での規定に則ります。言語能力や履修規定によって履修科目が制限されることがあります。また、正規科目以外の語学科目（ESL等）や、履修する科目があらかじめ指定される場合もあります。
- (5) 本学及び派遣先が定める期間内に出入国するようにして下さい。
(アジア圏はプログラム開始・終了日の前後3日以内。その他の国地域は、プログラム開始・終了日の前後5日以内。)
- (6) 日本学生支援機構奨学金受給者の方は、派遣決定後速やかに学生オフィスに報告を行い、必要な手続きを取ってください。
- (7) 3回生・4回生時に留学に行く場合、就職活動など個人的事由による帰国は一切認められませんので、事前に必ずキャリアオフィスや経営学部事務室に相談してください。

12. 個人情報について

書類に記入する個人情報は、留学の参加者の選考・渡航に関する手続きや本学からの連絡、および今後のプログラム内容の改善を図るための学内統計資料を作成するため、個人を特定することのできない形に加工した統計処理用のデータとして使用することがあります。また、本学が留学の参加者に代わって留学先大学および保険会社に対して渡航手続・保険手続を進める上で、必要な情報についてのみ提供されます。

13. 立命館大学経営学部 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項

「2017年度 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 基本姿勢

立命館大学経営学部 BSAプログラム(以下「プログラム」という。)に参加する学生は、次の点を遵守しなければならない。

- (1) プログラムの目的と主旨を理解し、積極的にまじめな態度で勉学に励まなければならない。
- (2) 立命館大学(以下「本学」という。)の学生として自覚と誇りを持って、本学および派遣先大学・機関(以下「派遣先」という。)の名誉を傷つける行動は慎まなければならない。
- (3) プログラム期間中は、日本の法令および本学の諸規則の他、派遣先の国・地域の法令および諸規則を遵守し、本学および派遣先の教職員の指示に従わなければならない。

2. 健康管理等

- (1) 健康管理は、自らの責任でおこない、服用の必要な医薬品や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (2) 医師による診断書などに基づき、留学プログラムへの参加または継続が困難であると本学が判断した場合、これに従うこと。この際、日本国外に滞在している場合は速やかに帰国すること。
- (3) 前号によって参加または継続を中止した後、健康状態等が回復したとしても、教学上の理由等から、本学の判断によりプログラム復帰を認められない場合があることを理解すること。
- (4) 渡航前に、本学が指定する海外旅行傷害保険等へ加入すること。
- (5) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について所定の方法で事前に本学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。
- (6) 傷病等により入院加療の医療措置が必要となった場合は、すみやかに本学および派遣先に報告するとともに教職員の指示に従うこと。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (7) プログラム期間中、傷病等により、保証人による救援などが必要と本学が判断した場合、保証人に対し、本学の指示に従って行動するよう、予め了承を得ること。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (8) 既往症および、現在疾患等がある状態でプログラムに参加し症状が悪化したとしても、本学および派遣先に対して、何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わず、関連して必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (9) 緊急に医療手当てまたは手術の必要が生じ、本人または保証人の同意を得る時間的猶予が無い場合は、派遣先の当該担当者の判断によって処置することに同意すること。
- (10) 本学による定期健康診断もしくは本学の指定する健康診断を、出発日から遡って1年以内に受診すること。

3. 経費および補償等

- (1) プログラムに要する費用(研修料・宿泊費・航空運賃・保険料等)は、指定の期日までに納入すること。
- (2) 所定の期日後に、本人の傷病、処分等の理由によってプログラムへ参加または継続が出来なくなった場合、または辞退した場合には、必要経費について負担すること。
- (3) パスポートやビザの取得手続きに関する遅延および申請却下や天災・災害・ストライキ・伝染病・政治情勢の変化・戦争・テロ、その他不可抗力に起因するな事態によって、プログラムの中止、中断及び内容の変更があった場合、本学及び派遣先に損害賠償を要求せず、前号と同様の費用を負担すること。
- (4) 本人の不注意または、本学及び派遣先が管理できな状況下で、事故、病気または死亡事故が発生した場合、本学及び派遣先に対して何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わないこと。
- (5) 本人の所有物の盗難や損害、交通事故、刑事事件等、本学及び派遣先が管理できない状況下で発生した場合、本人の責任で対応しなければならないこと。
- (6) 本人の故意または重大な過失により、プログラムに重大な損害を与えた場合は、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。

4. 誓約書の提出

上記事項を理解し厳守するために、本人及び保証人連名による誓約書を提出すること。

「2017年度 BSA I プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

「2017年度 BSA I plusプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

「2017年度 BSAⅢプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 派遣先での研修に際しては、所定の航空便等を利用して入国し、個人での入国を行わないこと。
- (2) 派遣先での研修修了後は、所定の航空便等を使用して帰国し、個人での帰国を行わないこと。
- (3) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。
- (4) 所定の基準に基づき、学業面から留学プログラムへ参加の継続が困難と本学が判断し、帰国を命じた場合には、当該措置に従うこと。

2. 自由時間における行動

- (1) 派遣先の寮規程または入居したホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (2) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (3) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (4) 旅行または外泊をする場合は、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (5) 前号の旅行または外泊の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。

3. 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

4. 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および保証人連名による誓約書を提出すること。

「2017年度 BSAⅡ・Ⅳプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・出国

本学および派遣先が定める期間内に出国・帰国すること。

2. 自由時間における行動

- (1) 本学および派遣先が指定する居住施設に入居すること。
- (2) 派遣先の寮規程および入居した居住施設の規則に従い、生活すること。
- (3) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (4) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (5) 派遣先の休暇期間中に、旅行または一時帰国をする場合は、派遣先にその旨を報告するとともに、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (6) 前号の旅行または一時帰国の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。

3. 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

4. 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および保証人連名による誓約書を提出すること。

※各遵守事項にある「誓約書」は、合格後の派遣者ガイダンスを経て提出してください。

14. 派遣先大学紹介



→国・都市：中国・北京

北京市の特徴：

中国の首都、政治・文化の中心地で、故宮、天壇など多数の世界遺産があります。

大学の特徴：

☆創立：1951年

☆学生数：約10,000人

☆HP：http://www.uibe.edu.cn/

☆大学の特徴：

- ・北京市北東の市街区に位置し、近隣には中日友好病院や、日本でも馴染みの深いスーパー等の便利な施設があります。
- ・国際経済貿易の専門家養成の高等教育機関として、国家「211」プロジェクトが初めて承認した重点大学。経済、金融、管理等の分野において一流の水準を有する大学です。
- ・中国で最も早く国際学術交流を展開した大学であり、現在、世界の30ヶ国以上の国や地域にある100以上の大学や研究機構と協力交流関係を結んでいます。

对外経済貿易大学



過年度派遣実績
(春期1.5年)

2016年度 0名

2015年度 1名

2014年度 1名

過年度派遣学生体験記

2014年度春期BSAIV1.5年・女性

私がBSAIVの1年半の中国留学経験で得たものは出会いと経験です。皆さんはどのようにして留学先を決めるでしょうか。多くの人は自分の行きたい国、社会に出てからも役立つ英語力を得られる英語圏の国を選ぶでしょう。そう考えると私の渡航理由は少し変わっていたと思います。理由は中国が大嫌いだったからというものです。お互いに相手の悪い報道が世間に広がっている現在、私もその影響を受け、中国に対し悪い印象を持つ一人でした。しかしある時ふと私は中国について何を知っているのだろうか？と疑問を持ち、だんだんと中国を知りたい、中国語で中国人と話をしてみたいと思うようになりました。

とは言いつつも中国語の学習はとても難しかったです。はじめは英語と同じ文法感覚であるし、簡体字も日本の漢字とだいたい同じなので簡単だと思っていました。しかし学習の水準があがるにつれ、文法も言葉の難易度も増してきて混乱することもありました。日常でも最初のほうは発音が悪くて中国人に話していることが伝わらないこともありました。悔しくて、はじめの半年は寮の近くのカフェで授業のあとに自習をして、中国人の友人に発音のレッスンしてもらおうという毎日を過ごしていました。おかげで留学当初は初心者レベルだった私の中国語は一気に飛躍しました。そして言語という壁に感じていた圧力がふっと和らぎ、積極的に外に出てみようと思えるようになりました。

留学中の出会いは様々です。中国の首都という環境なので中国人はもとよりその他の国籍の外国人や現地の日本人ともたくさん交流することができました。多くの中国人は私が日本人ということに気にせず、むしろ好感を持って迎え入れてくれました。時には彼らのふるまいに日本人以上の思いやりやおもてなしを感じ、日本人以上に熱意を持って仕事や勉強に取り組む彼らに尊敬の念を抱きました。また現地の日本人は学生も社会人もグローバルな視野を持って日中の在り方を考えており、活力にあふれていました。

では留学後、この経験をどう活かすのか。私が今考えているのは、中国留学をする学生が減少しつつある中で次の留学生へつなげていくこと、そして将来中国へビジネスや日中の交流でもう一度中国とつながることです。最後に、多くの機会と成長を与えてくれた北京に最高の感謝を。ありがとう！

過年度派遣学生のスケジュール例

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 | 日曜日 |
|------|---------------|-----|----------|--------|--------|--------------|----------------|
| 1 限目 | ビジネス中国語(上級) | | | | | 掃除・トランペットの練習 | バンドのメンバーや友人と食事 |
| 2 限目 | 中国経済管理(日本語開講) | | 対外貿易実務 | 経済新聞閲読 | 中外投資概論 | | |
| 3 限目 | | | 中国対外貿易法律 | 中国外貨管理 | | | |
| 4 限目 | | | | | | | |

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。